リン酸塗布方式エキシマレーザードーピングを施した 低温多結晶 Si 薄膜の電気特性

Electrical Properties of LTPS Thin Films after Excimer Laser Doping with H_3PO_4 Thin Films

九州大学 ¹, 九州大学ギガフォトン共同研究部門 ², 東北大未来研 ³ ○妹川 要 ^{1,2}, 田中 希 ¹, 諏訪 輝 ^{1,2},

中村 大輔 1, 佐道 泰造 1, 後藤 哲也 3, 池上 浩 1,2

Kaname Imokawa. ^{1, 2}, Nozomu Tanaka¹, Akira Suwa^{1, 2}, Daisuke Nakamura¹, Taizoh Sadoh¹, Tetsuya Goto³, and Hiroshi Ikenoue^{1, 2}

Kyushu Univ.¹, Department of Gigaphoton Next GLP, Kyushu Univ.², Tohoku Univ.³ E-mail: h.ikenoue.834@m.kyushu-u.ac.jp

1. はじめに

フラットパネルディスプレイのスイッチングデバ イスである薄膜トランジスタ(TFT)のチャネル材料 として、低温ポリシリコン (LTPS) が用いられてい る. LTPS は a-Si をエキシマレーザーアニーリング (ELA) することにより形成され、基板温度を低温に 保つことができることから、プラスチック基板を用い るフレキシブルディスプレイへの適用が可能である. 一方で、トランジスタのソースドレインコンタクト形 成にはコンタクト抵抗低減のためイオン注入や化学 気相成長法 (CVD) 等の真空プロセスや高温処理が必 要とされ、プラスチック基板や Roll to Roll プロセス との整合性が低いことが問題となっている. 我々はこ れまで真空を用いない安価な低温プロセスとして、リ ン酸溶液を LTPS 表面に塗布してエキシマレーザーで ドーピングする方法について報告してきた[1]. 本稿 では、このリン酸塗布方式でドーピングした低温ポリ シリコンの電気特性について報告する.

2. 実験

レーザーにはギガフォトン製 KrF エキシマレーザーを使用した. 基板は SiO $_2$ (100 nm)/SiN(50 nm)/Glass sub. であり,この基板上に低圧 CVD により a-Si 膜を 50 nm 成膜した. 成膜した a-Si 膜に対してフルエンス 400 mJ/cm²,照射回数 20 shots で KrF レーザーを照射して LTPS 膜を形成した. 次にリン酸溶液を LTPS 表面に コーティングした 基板に対しフルエンス 100~500 mJ/cm²,照射回数 20 shots で KrF レーザーを 照射した. 照射後,4 探針抵抗測定,SIMS 分析,およびホール効果測定を行った. また,Al(100 nm)/Ti(30 nm)電極をスパッタ形成したのちに TLM(Transmission Line Model)法によるコンタクト抵抗評価を行った.

3. 結果

図 1 にレーザーのフルエンスに対する LTPS の抵抗率変化を示す. レーザー照射することで抵抗率が急激に小さくなることを確認し,フルエンス $400~\text{mJ/cm}^2$ で最小値 $0.08~\Omega$ cm となった.

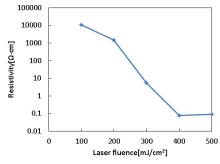


図 1 リン酸溶液塗布した LTPS に KrF エキシマレーザーを 20 パルス、フルエンス 100 mJ/cm² \sim 500 mJ/cm² で照射したときの抵抗率変化

また、照射領域で二次イオン質量分析(SIMS)した結果、リンは厚み 50 nm の Si 内におおよそ 1×10^{19} cm³ で均一に分布していた.また、ホール効果測定を行った結果、キャリア濃度は 1.5×10^{18} cm⁻³、移動度は $61 \text{ cm}^2/\text{Vs}$ 、活性化率は 14.6 %であった.また、フルエンス 400 mJ/cm^2 の照射部分に AI/Ti 電極をパターン形成させたのちに $400 \text{ }^{\circ}\text{C}$ で水素アニール(30 min)を行い、各電極間の抵抗を測定したグラフを図 2 に示す.TLM 法からコンタクト抵抗を見積もった結果、 $1.8 \times 10^{-4} \Omega \cdot \text{cm}^2$ であった.講演では、これらの結果に対する詳細な考察を加えて報告する.

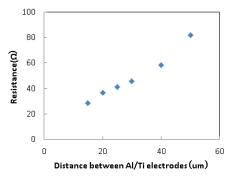


図2 フルエンス 400 mJ/cm², 20 パルス照射した領域に Al(100 nm)/Ti(30 nm)電極を 15 um から 50 um までの間隔で形成後, 400 $^{\circ}$ で水素アニール 30 min を施した後の各電極間の抵抗値

参考文献

[1] 妹川 要,田中 希,諏訪 輝,中村 大輔,佐道 泰造,池上 浩, 第65回応用物理学会春季学術講演会, 2018.03.